


島根県立大学 松江キャンパス発

地域研究と 教育

vol.
7



 島根県立大学
島根県立大学短期大学部
松江キャンパス

しまね地域共生センター
Shimane Center for Exchange through Community, The University of Shimane Junior College

〒690-0044

島根県松江市浜乃木7-24-2

TEL 0852-28-8322

FAX 0852-20-0267

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp>



「地域研究と教育 Vol.7」

はじめに

平成30年4月、島根県立大学松江キャンパスは地域のニーズに応え、4年制大学の人間文化学部(保育教育学科・地域文化学科の2学科構成)と新しく生まれ変わった短期大学部(保育学科・総合文化学科の2学科構成)の、計4学科で新たなスタートを切りました。現在、松江キャンパスでは、全教員47名と職員がそれぞれの専門領域で研究・教育にあたっています。

この「地域研究と教育」は、各教員の研究・教育活動のなかでも、「地域」に特化した内容を地域の皆様に知っていただくため、キャンパス独自に発行しているものです。平成24年6月に文部科学省から発表された「大学改革プラン」の目標の一つ、「地域の課題解決の中核となる大学の形成—大学COC (Center of Community—地〈知〉の拠点)機能の強化」を推進するにあたり同年11月に創刊、以後、版を重ねてきました。また、昨年度(平成29年度)は、本学が平成25年度に採択を受けた文部科学省「地〈知〉の拠点整備事業(大学COC事業)」の終了年であったことから、5年間の活動内容を「地域研究と教育Vol.6(2013-2017COC地域志向研究・教育総集編)」としてまとめ、公表しました。

このように、松江キャンパスでは、地域貢献を目指した取り組みを行ってきましたが、新体制のもとカリキュラムを一新、また、新たな教員が加わり、地域の〈人〉・〈文化〉を重視した研究・教育活動へとさらなる拡がりを見せています。

このたびの「地域研究と教育Vol.7」は、新生松江キャンパスを地域の皆様に知っていただくため、多彩な専門分野における「地域」に特化した近年の研究と、4学科を特色づける各教育活動を中心に、わかりやすくまとめました。

今後とも、地域社会に根差した公立大学として、地域の将来を担う人材を育成し、研究を重ねていきますので、地域の皆様には、どうぞ更なる連携、ご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成31年3月

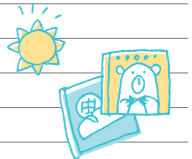
松江キャンパス地域連携推進委員長 工藤 泰子

CONTENTS



保育教育学科

2	教育連携の拡充 平成30年度の連携協定
2	しまねの文化を学ぶ 全学共通「しまね文化論」の開講
3	第45回ほいくまつり
4	小学校における理科支援に関する活動
5	小学校での「図画工作」特別授業
5	障がい者アート作品による障がい理解拡充に向けた研究
6	全国の特別支援学校をつなぐ遠隔社会見学
6	教員養成校における音楽教育プログラム「おんがくとあそぼう」の取り組みについて
7	安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携
7	里親支援に向けた取り組み
8	松江市保育研究大会への協力
8	地域資源を活用した保育内容・初等教育の理論と方法に関する研究
9	絵本の読み聞かせを通じた保育者・教育者の育成



地域文化学科

10	地域の文化の発見 [地域文化論Ⅰ(小泉八雲)]
10	地域の文化の発見 [地域文化論Ⅱ(出雲)]
11	地域の文化の発見 [地域文化論Ⅲ(山陰)]
11	地域の文化の発見 [地域文化論Ⅳ(地域資源)]
12	地域の文化の体験 [しまね文学探訪]
12	地域の文化の体験 [しまね歴史探訪]
13	地域の文化の活用 [観光と地域資源]
13	初年次教育
14	中学校・高校との連携
15	研究 [観光まちづくりの担い手組織のあり方に関する研究]
15	研究 [民俗学による地域理解と地域志向教育]
15	研究 [鳥取県学校司書配置政策に関する研究]



保育学科

16	運動遊びにおけるプレーリーダーとしての保育者の役割についての研究
16	楽しい体育学習を求めて
17	中学校保健体育教員を対象にしたダンス指導の研修プログラム開発
17	島根県中学校保健体育科研究大会
18	ふるさとに伝承する民謡の発掘と地域の活性化を目指して
18	島根県学校ダンス授業研究会
18	ダンス大好き!豊かに表現する子どもの育成を願って
19	島根県小中学校養護教諭研究大会
20	声楽研究分野における地域貢献活動
20	学生の主体的な学びの形成に資する保育者養成プログラムの構築



総合文化学科

21	フィールドワークへのいざない [総合文化学科研修計画Ⅰ]
21	フィールドワークへのいざない [総合文化学科研修Ⅰ]
22	島根の魅力を英語で発信 [文化とガイド]
22	地域を知る [総合文化基礎ゼミナールほか]
23	公開講座「椿の道アカデミー」
23	しまね地域マイスター制度(人間文化学部)
24-26	地域志向研究活動一覧
26-27	地域志向教育活動一覧



教育連携の拡充

平成 30 年度の連携協定

新しく生まれ変わった松江キャンパスは、平成30年4月25日、松江商業高校、湖南中学校と三者教育連携協定を、平成30年5月21日、乃木小学校、忌部小学校、忌部幼稚園、幼保園のぎと五者教育連携協定を、それぞれ新たに締結しました。本学は、これまでも教職員相互の研修・授業参観のほか、学生による、絵本の読み聞かせ、図書館ボランティア、学習補助ボランティア、イベントの手伝い等、多彩な形で交流を深めてまいりました。今後は4大化に伴う教育の専門化により、連携機会のさらなる拡充をはかっていきます。



平成30年度は、地域文化学科中野洋平講師（民俗学）による湖南中学校での出前講義、同学科ラングリス准教授（英語教育学）の講義見学会（松江商業高校の先生方）などを行いました。

また、本学は、松江市立女子高校との交流を続けており、保育学科渡辺一弘教授による講義のほか、10月には、1年生100名と先生方5名が本学を訪れ、保育学科渡邊寛智講師の模擬講義、学



内見学後、同高校の卒業生6名との交流を行いました。

今後も、より良い教育環境づくりを推進し、地域の教育機関との連携を進めていきます。

しまねの文化を学ぶ

全学共通「しまね文化論」の開講

人間文化学部1年生の共通科目として「しまね文化論」を開講しました。人間文化学部は、地域に愛着と誇りを持ちながら、地域に根差し、地域に活躍できる人材の育成を目指しており、本授業はその重要な科目と位置付けられています。

島根県が有する豊かな特色ある地域文化・地域資源について、各回のテーマに相応しい専門家や実践者をお招きし、文化の歴史的背景やその価値、文化を継承する上での課題や取り組みなどをご講義いただき、地域の皆様にも本授業を公開しました。

また、世界遺産石見銀山にてフィールドワークを行うことで、それまで座学で学んだ知識を一層深めることができました。

◎ 公開した講義内容

神々の国しまね(1) (出雲大社)	千家和比古氏(出雲大社権宮司)
神々の国しまね(2) (神話)	錦田剛志氏(万九千神社宮司)
しまねの日本遺産(たたら製鉄)	田部長右衛門氏(田部家 25 代当主)
しまねの地質遺産(隠岐世界ジオパーク)	野辺一寛氏(隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会)
しまねの世界遺産(石見銀山)	仲野義文氏(石見銀山資料館館長)
しまねの自然	中村唯史氏(島根県立三瓶自然館)
しまねの食文化(1) (松江の茶文化)	中村寿氏(中村茶舗代表取締役)
しまねの食文化(2) (出雲風土記と島根の食文化)	吉野勝美氏(大阪大学名誉教授)
しまねの国宝(松江城)	ト部吉博氏(元松江市松江城調査研究室長)
しまねの伝統芸能(神楽)	藤原宏夫氏(島根県教育庁文化財課)



第45回ほいくまつり

—全人的保育者養成を目指して—



保育教育学科では、島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して「ほいくまつり」を毎年開催しています。「ほいくまつり」の取り組みは本学科独自の1・2年生必修科目「表現研究」の一環として行われます。1・2年生全員が舞台系、裏方系など10のパートに分かれて取り組みますが、週に2回の授業時間だけでなく、ほぼ毎日、放課後残って自主的・自治的活動を行うことになります。

学内で何度も繰り返すリハーサルでは、全員で意見を交換し、子どものための表現活動について考えます。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭など、将来子どもにかかわる者にとって必要な子ども理解を深めていくのです。その過程の中で、入学まで一人ひとりが培ってきた力を発揮できるとともに、協力することの大切さを学び、感性を磨いていくことができます。

本番当日、子どもたちの笑顔に出会うことは最高の感動ではありますが、同時に取り組み過程そのものを経験することで、将来保育・教育に携わる者に求められる力と自信と夢を獲得してもらいたいと思います。なお、島根県民会館での開催にあたり、会場設営や当日の進行は、公益財団法人しまね文化振興財団との連携で行われています。

全てが
手作りである



保育教育学科学生1・2年生全員参加で、歌唱、影絵劇、劇、大道具、小道具、司会、音響効果、照明、衣装、広報記録の10パートに分かれて取り組んでいきます。1・2年生が縦割り組織の中で、リーダーシップとフォローシップを学びます。なお、その全てが手作りで進められます。

「子ども主体」の
発表プログラム



歌唱や司会では馴染みのある歌や遊びを、影絵や劇では絵本や紙芝居等で見聞きしたことのある題材を取り上げ、子どもが普段園や家庭で経験する内容を含むよう計画しています。子どもの日常の延長上に位置づけ、舞台を見ながら自分も真似をしたり歓声をあげたりしながら参加できる内容を企図するからです。また発表内容だけでなく、企画・運営から子どもとの触れ合いまでの全過程で、子どもの視点第一に考えています。

1・2年生で行う
インパクト



このような発表活動は通常、学びの集大成として卒業前に開催されますが、本学科では1・2年次の6月に実施しています。これは「ほいくまつり」の取り組みによって、その後の専門的学修に強い動機と意欲を得られると考えているからです。1年生は、入学間もない時期に保育・教育の持つ責任、難しさ、喜び、夢に出会うことになり、2年生は、3・4年次につながる基礎力を養い、表現力と自信を獲得することになります。「ほいくまつり」は保育・教育を深く学んでいくためのきっかけであり、始まりなのです。



小学校における理科支援に関する活動

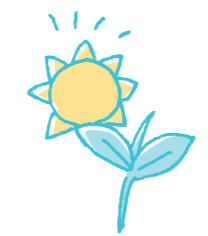
—観察・実験活動を中心とした小学校理科出前授業を通して—

保育教育学科教授 高橋 泰道

この度の学習指導要領改訂に伴い、新しい時代に必要となる資質・能力(生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養)の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業の充実が叫ばれています。

これに関わって、小学校理科教育においても、○理科で育成を目指す資質・能力を育成する観点から、自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を基に考察し、結論を導き出すなどの問題解決の活動を充実 ○理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視などが改訂のポイントとなっており、問題解決活動の充実と学んだことを活かした「活用」の授業の在り方が課題となっています。

そこで、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目的とした教育連携に関する協定の本学との締結校である近隣の小学校において、小学校理科授業における観察・実験活動の充実(児童の理解力向上)と現場教員の資質(指導力)向上を図ると共に、小学校教員養成の一環として本学学生の理科指導に関わる資質(指導力)向上に寄与することを目的として、観察・実験活動を中心とした理科の出前授業を実施しました。



小学校での「図画工作」特別授業

—文化庁派遣事業—

保育教育学科准教授 福井 一尊

H28年から、文化庁『芸術家学校派遣事業』によって福井一尊准教授(美術教育学研究室)が県内の小学校に図画工作科の特別講師として派遣されています。美術家としての一面をもつ福井准教授が「造形あそび〜ワクワク、モコモコ、キラキラ〜」の授業を実施します。視覚、聴覚、身体感覚を存分に使ったカラフル巨大風船の制作を通して、初等学校教育における「造形あそび」の意義や学習効果を示しました。光と色の美しさに気づける楽しい活動となり、現場教員を含めた参加者全員で、学びの実感を共有しています。

また、同研究室に所属している学生7名も、アシスタントとして小学生をファシリテートします。将来保育・教育職を目指す学生にとっては、造形活動によって保育・教育を推進することの優位性について学ぶ機会となっています。保育・教育に対する自信と責任、そして夢に出会う活動です。



障がい者アート作品による障がい理解拡充に向けた研究

—島根県障がい者アート作品展を通して—

保育教育学科准教授 福井 一尊

「島根県障がい者アート作品展」(主催：島根県・島根県社会福祉協議会)の公開審査において、福井一尊准教授が審査委員長として協力しています。県内全域から作品が寄せられる本審査会は関係施設職員の研修の場としても位置づけられており、多くの参加者との意見交換を交えながら進められます。作品は島根県立美術館にて公開され、毎年多くの来場者を楽しんでもらっています。

この取り組みは、県内における障がい者理解の拡充を目的としていますが、アートとしての訴求力を適正に評価し、公表することで作者の自立支援につなげるという大きな目標もあります。そのためH25年の「しまね県民福祉大会」シンポジウムでは、テーマを「障がい者アートの魅力と可能性」とし、福井准教授がコーディネーターを務めました。またH26年には、全国に先駆けて「障がい者アートを活用した商取引に係るガイドライン」を、福井准教授が委員長となり整備しました。

そして、H30年には、これまでの本取り組みをまとめ、障がい者アートの魅力を紹介する書籍「しまねの障がい者アート」(福井准教授 編著)を出版し、福祉施設、学校等において広く活用してもらっています。





全国の特別支援学校をつなぐ遠隔社会見学

保育教育学科准教授 西村 健一

肢体不自由のある児童や生徒は外出に困難を伴いやすく、遠隔地で社会見学を行うことは難しい。そこで、ソフトウェア開発の OKI ワークウェル(東京都港区)と協力し、全国の肢体不自由特別支援学校と「遠隔授業ソリューション」で結び、合同で遠隔社会見学を実施した。今年度は、江津清和養護学校が山陰から始めて参加した。10月23日に国立天文台と全国8校を結び、仮想宇宙空間シミュレーションソフト「Mitaka」を使用して太陽系惑星や天の川の説明を受けた。江津清和養護学校の児童からは月の満ち欠けに関する質問が出され、国立天文台の縣准教授より月の模型を使った説明を受けることができた。この取り組みは全国のテレビや新聞に取り上げられ、大きな反響が寄せられた。



教員養成校における音楽教育プログラム「おんがくとあそぼう」の取り組みについて

保育教育学科講師 梶間 奈保

本プログラムは1年次の授業「音楽II」で行う音楽教育プログラムとして取り組んでおり、様々な分野で教職を志す学生が音楽を通して子どもたちと一緒に活動することで、教員としての実践力だけでなく、人と関わる喜びを感じ、大学生活においても豊かな人間性を育てていく機会になればと始めました。

具体的な取り組み内容は、まずは実践先へ訪問し、日頃の生活の中で子どもたちと触れあったり現場の雰囲気や体験します。その体験をもとに、約1ヶ月の間、授業の中で「どのような音楽活動で子どもたちに楽しんでもらいたいか」をテーマにして活動計画をグループ内で練り、授業での模擬実践を経て、再び施設等を訪問して実践をします。その後、自分たちの実践をビデオ録画等を通して分析し、ディスカッションしていきます。

現在、1年生は10のグループに分かれて本学の連携校である小学校や幼保園、そして地域の医療施設や福祉施設などへ訪問しています。初回の訪問時では、子どもの対応方法や現場の先生方の姿から自身の教師像について自問自答をする学生も多かったようです。また2度目の実践訪問では、自分たちの思い描いていた活動のイメージと実際の子ども姿に大きなギャップを感じていました。また、それらを客観的に分析することで、音楽の活動の持つ意味や子どもと音楽との関わり方について、実感を持って考察し、実践力へとつなげていければと思います。



安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携

—島根県との連携事業—

保育教育学科准教授 藤原 映久

児童養護施設では児童虐待などを理由に家庭で生活することができない子どもたちが集団で生活しています。多くの子どもたちは住み慣れた地域や仲の良かった友達からも離れ、施設での新生活を始めることになります。そこに大きな不安が伴うことは容易に想像できます。施設職員はそのような子どもたちに寄り添い、愛情を注ぎ、子どもたちの育ちと生活を支えます。その時、最も求められるのが安心・安全な生活環境です。施設に入るまでの生活環境が不安定だったからこそ、最も大切なことです。そこで、島根県中央児童相談所と連携しながら、児童養護施設安来学園で月に1回の施設内職員研修を開催し、子どもたちが安心・安全に暮らすことができる生活環境のあり方について議論し、日々の実践に繋げています。



里親支援に向けた取り組み

—島根県との連携事業—

保育教育学科准教授 藤原 映久

現在、日本では、親がいなかったり児童虐待などを理由として、約4万5000人の子どもたちが乳児院や児童養護施設、里親宅などで生活しています。これまで、このような子どもたちは施設で集団生活することが多かったのですが、国は今後の方向性として、家庭と同様の養育環境で生活できるようにすることを目指しています。その中で注目されているのが里親制度ですが、多様な背景をもった子どもたちの最善の利益を目指すには、里親家庭だけでは困難が伴うこともあります。そこで、島根県中央児童相談所と連携しながら、里親家庭が安心して子どもを迎え入れ、子どもを養育できるように年4回程度の里親支援研修会を開催しています。今年度は学生の企画による交流会も行いました。





松江市保育研究大会への協力



保育教育学科准教授 小山 優子 保育教育学科准教授 矢島 毅昌

平成30年11月10日に行われた第11回松江市保育研究大会において、保育教育学科の小山優子准教授は育英保育園(第1分科会)で、矢島毅昌准教授は袖師保育所(第3分科会)で研究大会の指導助言者を務めました。分科会では、担当所園がまとめた研究成果発表後、グループ討議が行われ、そののち指導助言者による指導及び講評を行いました。2名の教員は研究大会発表までの間、それぞれの園内研究会の講師も担当し、保育研究と保育実践に関する指導助言も行ってきました。



地域資源を活用した 保育内容・初等教育の理論と方法に関する研究

地域資源の探究・保存・継承を通じた初等教育の理論と実践に関する研究
学術教育研究特別助成金(共同研究)

代表:保育教育学科准教授 矢島 毅昌 共同研究者:保育教育学科准教授 福井 一尊 / 総合文化学科講師 キッド・ダスティン

本研究は、保育内容・小学校生活科・図画工作科・異文化理解の視点から島根県内の地域資源の魅力を明らかにして、教材としての可能性を探究することを目指すものです。

特に近年は、地域資源を活用した子どもの体験を重視する教育実践が重要になっています。また、得難い体験を補完するための情報機器の活用が幼児期から意識され始めています。これからの状況を踏まえ、本研究では写真やビデオでの記録により地域資源を教材化することを重視し、情報機器の活用が不可欠となった社会に相応しい体験的な学びのあり方を探究しています。



絵本の読み聞かせを通じた保育者・教育者の育成 —おはなしレストランライブラリー・乃木小学校・幼保園のぎでの実践—

保育学科講師 中井 悠加

保育教育学科の1年生は、秋学期の水曜日に開講される基幹研究プロジェクト科目にある「言葉研究(読み聞かせ実践)」を全員が受講します。おはなしレストランライブラリーにおいて、絵本のこと、子どもたちのこと、そして選書から読み方まで、絵本の読み聞かせにまつわる様々な基本的な知識と技術を実践的に学びます。

学生どうしや授業担当教員の前でしっかり練習を重ねながら、松江市立乃木小学校や松江市立幼保園のぎに出向き、子どもたちの前で絵本の読み聞かせを行います。保育士・幼稚園教諭・小学校教員等をめざす学生たちが共に集うことで、それぞれの発達段階の違いを知り、絵本を介した子どもたちとのかわり方を実感を持って学び合います。絵本の読み聞かせというと幼児教育や保育のイメージが強いと思われがちですが、小学校の国語教科書に掲載されている物語教材のほとんどは絵本を原典としています。小学校教員をめざす学生は、幼保小のつながりを意識すると同時に、絵本をくり返し解釈し、それを自分の〈声〉として表現しようと努力を重ねることによって、教材解釈の基礎力も身に付けていきます。

松江キャンパスで読み聞かせを取り入れた授業が始められて10年以上が経ち、学生の絵本の読み聞かせは地域に浸透した児童文化のひとつとして定着しつつあります。地域の子どもたちが、安心して物語の世界に聴き入りながら想像力を養うことのできる言葉の世界と文化環境をこれからも提供していきつつ、地域のこれからの幼児教育・保育・そして児童教育を担う将来の保育者・教育者を育成していきたいと考えます。





地域の文化の発見

地域文化論Ⅰ（小泉八雲）

本学非常勤講師・名誉教授 小泉 凡

山陰地方にゆかりの深い作家、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の生い立ち・思考・主要作品への理解を深め、八雲の現代社会における意味について探求します。具体的には、明治20年代の山陰の魅力を世界へ届けた紀行文『知られぬ日本の面影』の講読から、八雲の地域文化の観察態度や描写の特色について学びます。また、八雲のオープン・マインドな思考を、現代アート・朗読・音楽・伝統芸能・庭園・



着地型観光などで資源化し、地域の創造に活かす世界各地の取り組み事例から、作家や文学の地域資源としての可能性を考えます。小泉家に伝わるエピソードの紹介や小泉八雲記念館・旧居等ゆかりの地研修も授業に彩を添えます。



地域文化論Ⅱ（出雲）

地域文化学科教授 工藤 泰子 / 講師 杉 岳志 / 講師 山村 桃子 / 総合文化学科講師 キッド・ダスティン / 万九千神社宮司 錦田 剛志

異文化理解、神話、歴史、観光を専門とする教員4名が、島根県の文化を「出雲」という視点で講義を行います。神在月や出雲神話、神楽などを学んだ後、佐太神社・鹿島歴史民俗資料館への見学を実施しました。また神在祭が行われる万九千神社の錦田剛志宮司の講演により、神道文化が島根に根つき、脈々と継承されているを感じ取りました。さらに松江城、松平不昧を学習して松江城フィールドワークを行い、近現代に観光資源として活用される在りようについても学びます。出雲文化について英語で表現を試みることも、この授業のユニークな点です。「出雲」文化を時代にわたって学び、国際化時代にあってどのように魅力を発信するか、学生に考えるきっかけを与える授業になればと思います。



地域文化論Ⅲ（山陰）

地域文化学科講師 中野 洋平

民俗学は地域を分析し理解するためにとっても有効なツールです。この授業では、山陰地域の民俗文化を学ぶことに加え、民俗文化を通して山陰地域を学ぶことも目指しています。具体的には、まず少し時間をかけて「地域とは何か」について民俗学的な視点から考察します。次に、島根・鳥取両県の民俗文化財を事例とした様々な民俗文化を学修します。例えば、民俗芸能（神楽、風流）、年中行事、民具、民芸、文化的景観、伝統的建造物群などです。授業中は教材として映像資料を多く用い、受講生たちは時に議論しながら、人々の生活に根差した山陰両県の民俗文化を学んでいきます。



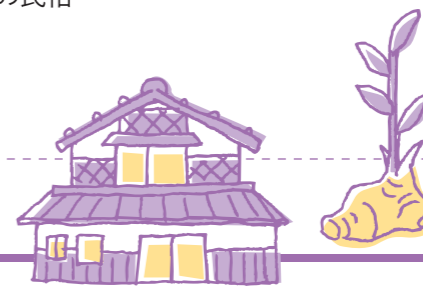
地域文化論Ⅳ（地域資源）

地域文化学科准教授 藤居 由香

島根県の豊かな地域資源のうち、学外研修では、土・石・砂・ガラスを取り上げました。

出雲市平田木綿街道の町並み景観は、出雲地方の粘“土”を焼いた瓦と、来待“石”が使われており、松江市から出雲市にかけてしか見られない貴重なものです。また、来間屋生姜糖本舗の出西生姜を使った菓子を通して、地域資源の商品化を考える端緒としました。

大田市仁摩町出身の建築家の高松伸氏設計の一年計の砂時計と一体化した仁摩サンドミュージアムでは、琴ヶ浜の鳴り“砂”の成分である石英が、ガラスの組成にも含まれることを学習し、地域資源の加工を体験するために、“ガラス”コップをデザインするサンドブラスト研修を実施しました。





地域の文化の体験

しまね文学探訪

地域文化学科教授 岩田 英作

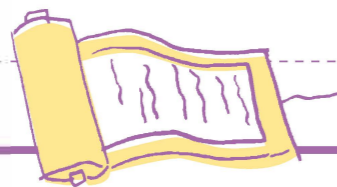
島根ゆかりの文学作品を読んで、作品の舞台となった土地を実際に訪れ、五感を通して文学を感じてみました。平成30年度は地域文化学科1年49名が受講しました。小泉八雲「神々の国の首都」、志賀直哉「濠端の住まい」、森鷗外「キタ・セクスアリス」、斎藤茂吉「手帳の記」などについて、岡部康幸先生の講義を受け、5月には松江城周辺や加賀(かか)の潜戸を巡り、7月には1泊2日で島根県西部(石見)地方を探訪しました。西部地方の探訪は、ちょうど広島・岡山に甚大な被害をもたらした豪雨の時期と重なりましたが、なんとか無事に日程を終えることができました。探訪のまとめとして、グループごとに写真と言葉によって発表しました。西部地方の探訪のまとめでは、柿本人麻呂・斎藤茂吉にあやかり、短歌の創作にも挑戦しました。



しまね歴史探訪

地域文化学科講師 杉 岳志

地域文化学科1年生を対象とする本科目では、島根県を構成するかつての出雲国・石見国・隠岐国の歴史を学修します。授業は講義・フィールドワーク・プレゼンテーションを3本の柱とし、講義の一部にはグループワークを取り入れています。このような授業構成としたのは、今後学生たちが地域の歴史を説明する際、文字で説明する機会よりも口頭で説明する機会の方が多くなると考えたためです。フィールドワークでは、グループワークで行った江戸時代の松江城下町絵図の分析を踏まえ、江戸時代の絵図と現在の地図を比較しながら松江の町中を歩きました。授業で取り上げた松江の事例を参考に、今後は学生各自が地域で歴史の痕跡を発見し、その魅力を発信してくれることを期待しています。

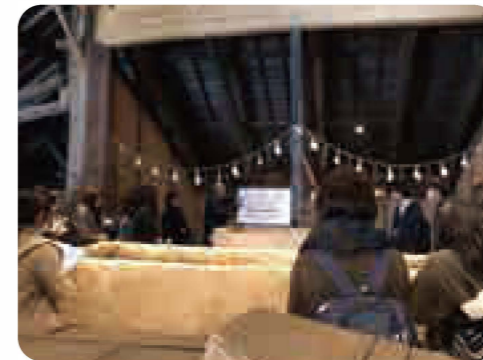


地域の文化の活用

観光と地域資源

地域文化学科教授 工藤 泰子

本学科では、「文化の活用」を学修するため、観光まちづくりに関する科目を設けています。そのうち、「観光と地域資源」(1年秋学期開講)では、世界的に有名な遺産から、徐々に身近な資源に目を向け、地域の現状と地域固有の文化資源を観光まちづくりに活用する方法を学修します。本授業では、特に、山陰が誇るたたら歴史と文化を観光に活かす町として、雲南市吉田町について学びます。フィールドワークを実施し、事前・事後学習を通して、地域に主体的にかかわる姿勢を身につけていきます。例年、菅谷山内、博物館、街並み見学を実施していますが、平成30年度は、それらに加え、田部長右衛門氏のご厚意により、田部邸見学の貴重な機会をいただきました。



初年次教育

—地域文化学科の特色ある学びの創造に向けて—

スタートアップセミナーⅠ・Ⅱ

地域文化学科教員

新学部新学科の発足とともに始まった初年次教育セミナーです。地域文化学科での4年間の学びに方向づけを与えるとともに、大学生にふさわしい学びと研究のスキルを身につけてもらうことがねらいです。学生たちは、例えば「神門通りはなぜ栄えたのか?」や「インスタ映えする島根の魅力再発掘」など、「地域」をキーワードにしてテーマを立てたり、あるいは「海外の日本庭園～その歴史と特色～」のような地域と世界をつなぐグローバルなテーマを考え出したりして、小グループによる探究型の学習に取り組んでいます。そして、その成果をプレゼンテーションの形で発表し、最終的には報告書にまとめていきます。

同時に、この初年次セミナーでは、地方創生のチャンピオンともいえる著名な方々を講師にお招きして特別講義を行っていただいています。講師の方々の現場感覚とそれに裏打ちされた専門的な知見に直に触れることで、文献やメディア媒体からは得られない知的刺激と学びへの動機づけを得る貴重な機会となっています。こうした体験型の学びを2年次以降の主体的な学びと専門性の獲得にどうつなげていくかがこれからの課題です。





中学校・高校との連携



出雲高校

島根県立出雲高等学校は、文部科学省からスーパー・サイエンス・ハイスクールならびにスーパー・グローバル・ハイスクールに指定され、国際社会で活躍する科学技術系人材およびグローバルな視点で社会課題を解決する人材の育成に取り組んでおられます。その活動の一環として、普通科2年生のみなさんが、数理情報、物質科学、生命・食農、生活科学、国際政治・経済、環境・エネルギー・食農、地域文化・多文化共生の各ゼミに分かれて「課題研究」を進めておられますが、本学科からは2名の教員が「外部連携指導員」として派遣され、地域文化・多文化共生ゼミの指導にあたっています。平成30年7月の「ゼミ別講義」および10月の「ゼミ別中間発表会」では、研究テーマの設定、具体的な研究方法などについてアドバイスを行いました。さらに、平成31年1月の「ゼミ別成果発表会」に向けて、各研究グループからの相談や質問に答えるなど、必要に応じて個別指導を行っています。

(地域文化学科准教授 増原善之 / 地域文化学科講師 中野洋平)



平田高校

*講演「地域の課題を解決するためにー平田木綿街道の町並み景観ー」

平成30年5月23日 2年生3クラス合同 約120名

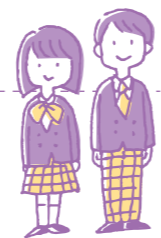
平田木綿街道にある地域資源が使われている建造物の特徴や、町並み景観の変容の調査結果を踏まえた内容を講じた。

*講演と連動した各クラスの授業

平成30年10月29日 2年生 50分×3クラスの授業

クラス別に、商品開発と販売に主眼を置く消費生活まちづくり、空き家問題に取り組む住居まちづくり、交流人口を増やすための交通まちづくりに取り組んでおり、高校生が11月に地域で地域活性化案を発表するための中間発表会で、グループ別プレゼンテーションに対する助言指導を行った。

(地域文化学科准教授 藤居由香)



〈協定校との連携〉

湖南中学校

*講演「地域探検学の魅力」

平成30年6月5日

1年生(全クラス) 総合学習の時間

(地域文化学科講師 中野洋平)



松江商業高校

*授業見学「総合英語Ⅳ(英会話)」

平成30年11月20日 松江商業高校教員

(地域文化学科准教授 ラング・クリス)



研究



観光まちづくりの担い手組織のあり方に関する研究

地域文化学科講師 竹田 茉耶

出雲市平田町にある木綿街道をフィールドに、町並み保全や観光振興の担い手組織のあり方について調査研究を行っています。観光まちづくりとは、読んで字のごとく、まちづくりと観光(産業)を一体で進める活動です。ただ、地域住民の生活環境の維持・向上を目指すまちづくりと、経済の活性化を主たる目的とする観光産業とは、必ずしも利害は一致しません。たとえば、観光資源となりうる歴史的な町並みをそのままに保全するのか、あるいは快適な住空間を優先して改修や建て替えを行うのか、観光客を増やすことと住民の日常生活を守ることとのバランスをどう考えるかといった問題です。

こうした課題解決の糸口を探るため、今年度は上記の研究テーマに取り組んでいます。



民俗学による地域理解と地域志向教育

地域文化学科講師 中野 洋平

民俗学を専攻しています。学生の頃からずっと、口寄せ巫女や舞太夫、夷願人といった歴史的な民間宗教者、芸能者について研究してきました。一方で、近畿地方を中心に自治体の文化財行政に関係し、調査員として地域の民俗文化財の調査に従事していました。民俗学は非常に幅の広い学問(悪く言えば何でもあり)ですが、島根に来てからは松江市島根町を主なフィールドとして、地域内の総合的な民俗文化研究および地域史的研究と、地域の持続可能性に貢献する民俗学的実践の双方を行っています。また、研究以外でも地域をフィールドとした学生教育について島根町の皆さんと共に取り組んでいます。

鳥取県学校司書配置政策に関する研究

地域文化学科講師 木内 公一郎

学校司書とは小中高および特別支援学校の図書館において専門的な業務を担う職員のことです。鳥取県はこの学校司書の配置率がほぼ100%です。特に県立高校には正規採用された司書が常駐しており、全国的にも注目されています。このような配置がなぜ実現し、継続しているのか、その要因を明らかにすることが研究の目的です。

研究はまだ道半ばですが、知事、教育委員会、議員、学校図書館団体、公共図書館、市民団体、地元書店など多くの関係者が実現に向けて努力する過程が明らかになりつつあります。それはまさに地方自治の理想的な形です。今後はこの研究を発展させて「学校司書配置政策モデル」を構築し、まだ配置が十分に進んでいない自治体へアピールしていきたいと考えています。



運動遊びにおけるプレーリーダーとしての 保育者の役割についての研究

～雲南市立幼稚園・保育所(園)・認定こども園の実践を中心として～

平成30年度学術教育研究特別助成金(個人研究)

保育学科教授 梶谷 朱美

連携研究者(機関):雲南市教育委員会・雲南市子ども政策局・雲南市身体教育医学研究所うなん

雲南市内18幼稚園・保育所(園)・認定こども園

雲南市子ども政策局子ども政策課 藤原 洋子

雲南市身体教育医学研究所うなん 西川 喜久子

のぞみ保育設計研究所長 野津 道代

雲南市は、平成24年度から文部科学省委託事業「幼児期の運動に関する指導参考資料」作成事業に取り組み、幼児期運動指針実践調査研究委員として岸本強教授と梶谷朱美教授が参画しました。平成26年度には、雲南市幼児期運動プログラム「理論編」が作成され、平成28年には「実践編」が策定されました。

さらに、平成29年度には「理論編」「実践編」を参考に、雲南市内18の幼稚園、保育所(園)、認定こども園の0歳児から5歳児までの保育実践76事例が収録された「雲南市幼児期運動プログラム実践事例集」が作成されました。

梶谷教授を中心に運動遊びの実践事例76全てについて、子どもたちの心身の発達と経験している内容、保育者の環境の構成と援助などの視点から分析、考察を行いました。

また、この実践事例が保育者を目指そうとしている学生や保育者にとって、子どもの心身の発達と運動遊びの意義を理解し、保育者の役割を学ぶ貴重な指導参考資料になることを確信し、現在、学生と保育者のための運動遊びの教材資料の発刊を目指しています。保育を学ぶ学生や保育者が、乳幼児期の子どもたちを支える専門家として学びを深め、子どもたちのために役立ててほしいと考えています。



楽しい体育学習を求めて

～島根県学校ダンス指導者研修会～



スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業 保育学科教授 梶谷 朱美

島根県学校体育研究連合会では、毎年7月末に幼児教育、学校教育、社会教育関係者を対象にしたダンス研修会を行っています。校種を超えた受講者が、ダンスの楽しさを体感しながら発達段階に応じたダンスの効果的な学習指導法を研修します。この研修会は毎年県内各地で開催され、その地域の教員、保育者に参加していただくことが大きな特色となっています。

54回目を迎えた今年度は、雲南市三刀屋文化体育館に県内各地から150名を超える受講者が参加しました。平成15年度からフォークダンスの講師を務める梶谷朱美教授は現在ダンス研修部会の会長を務め、研修会の企画運営の協力も行っていきます。



中学校保健体育教員を対象にした ダンス指導の研修プログラム開発

～教材理解の促進に焦点をあてて～

スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業

代表:島根大学教授 廣兼 志保

共同研究者:保育学科教授 梶谷 朱美 / 島根県教育庁保健体育課指導主事 吾郷 修治・中村 展久

島根県では、平成27年から毎年、東部地区と西部地区に分けて年に2回ずつ、中学校保健体育教員を対象に、武道とダンスの教材や指導法に関する実技研修を実施しています。この研修は県内各中学校から1名ずつの教員が受講し、3年間で全ての中学校が研修を受けられるよう運営されています。平成29年で第1期が終了し、平成30年度から第2期が開始し研修内容も新たなプログラムが稼働することになりました。



そこで、今までの受講者を対象に実施したアンケート調査の結果をもとに、新プログラムの内容を梶谷朱美教授と島根大学の廣兼教授、島根県教育庁保健体育課の吾郷指導主事、中村指導主事とともに検討、開発しました。



従来から実施していたダンス教材を体験する「知識・技能インプット型」の研修プログラムに加えて、体育科教育学の理論をもとに教員自身が指導案を構想し実践する力を向上できるように、受講者が構想した模擬授業を導入した「知識・技能アウトプット型」の研修プログラムを行いました。今後、受講生のアンケート調査の分析から成果と課題を明らかにし中学校保健体育教員のダンス指導の充実を図っていきたいと考えます。



島根県中学校保健体育科研究大会



保育学科教授 梶谷 朱美

島根県中学校保健体育科研究会が主催し、第7回目を迎える研究大会が出雲市立浜山中学校で11月に開催されました。この研究大会は3年に一度行われ、中学校の多くの保健体育科教員が参加し様々な領域の研修が深められています。今年度は、男女共修になり保健体育科教員の資質向上が急務なダンスの研修が行われました。

ダンス領域でも生徒の関心が高い「現代的なリズムのダンス(ヒップホップ)」の中学校2年生の授業が公開され、ダンス学習の単元構想や評価の方法、音楽の選曲等、熱心なグループ討議が行われました。梶谷朱美教授は生徒の実態に応じた単元構想やグループ学習の進め方、作品の見せあいなどの方法などについて指導を行いました。





ふるさとに伝承する 民踊の発掘と地域の活性化を目指して ～雑賀音頭の再創造～

保育学科教授 梶谷朱美

松江市雑賀町の自然や人々を歌った「雑賀音頭」は、1953年につくられました。雑賀小学校では、教員や地域住民が児童に歌や踊りを教え受け継いでおり、雑賀公民館（赤木直行館長）が「若い世代にも、もっと身近に感じてほしい」と地元ミュージシャンの別府克彦さんに編曲を、振付を梶谷朱美教授に依頼しました。



雑賀音頭のニューバージョンは、「ロック SAIKA 音頭」として生まれ変わり、雑賀に生きる子どもや若者一人一人が自分自身の「雑賀魂」をアップテンポなリズムに乗って表現できるように振り付けました。新しい雑賀音頭は、7月末の「さいかまつり」で初披露され、8月末の「松江だんだん夏踊り」では新旧の雑賀音頭が地域住民によって発表されました。今後、雑賀小学校の児童に新旧の踊りを継承し、踊りを通して雑賀町の活性化につなげてほしいと願っています。



島根県学校ダンス授業研究会

スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業 保育学科教授 梶谷朱美

島根県では、平成27年度より体育科ダンス学習における指導者の資質向上を図るために小学校・中学校・高等学校で研究授業を行い、ダンス学習の研究を深めています。今年度は、邑南町立石見東小学校と飯南町立赤来中学校、大田高等学校で開催され、県内各地域から校種を超えた参会者が集まり討議を深めました。梶谷朱美教授は講師として協力し、現代的なリズムのダンスや創作ダンスの題材理解や単元構想、指導方法などについての指導を行いました。



ダンス大好き！豊かに表現する子どもの育成を願って ～松江市小学校表現運動発表会・浜田市創作ダンス発表会・益田市学校ダンス発表会～

保育学科教授 梶谷朱美

島根県内では、松江市小学校表現運動発表会（主催：松江市教育研究会小学校体育部）が県民会館で毎年11月に開催され、益田市学校ダンス発表会（主催：益田市教育研究会保健体育部）がグラントワで1月に、また、浜田市創作ダンス発表会（主催：浜田市学校体育研究連合会）が石央文化ホールで2月に行われています。それぞれが半世紀を超える歴史と伝統のあるダンスの発表会です。松江市は小学生を対象とし、益田市は小・中学生を対象にダンスの領域を問わず自由に参加できる発表会を開催しています。一方、浜田市は創作ダンスの発表会で保育所、幼稚園から高等学校まで校種を超えた発表会です。いずれの発表会も子どもたちの感受性や創造力あふれる躍動的な表現に心打たれます。

梶谷朱美教授は発表会の講師として協力し、子どもたちに直接作品の講評を行い一つの作品のよさを伝えています。また、発表会は教員の研修の場としても位置付けられており、作品を映像で振り返りながら多くの教員と意見交換をしてダンス学習の意義や指導法について研修を深めています。



島根県小中学校養護教諭研究大会

よりよい生活習慣を身に付ける子どもの育成
～質のよい睡眠の確保とメディアコントロールを通して～

保育学科教授 梶谷朱美

10月に開催された第11回大会で、梶谷朱美教授が雲南市養護教諭部会の指導助言者を務めました。分科会では、4年間にわたる研究の成果を発表後にグループ討議と全体会があり活発な討議が行われました。雲南市養護教諭部会の研究は、現代の深刻な健康課題である「質の良い睡眠の確保」と「メディアコントロール」を複合的に取り上げ、養護教諭が中心となって市全体で取り組まれた先進的な研究です。梶谷教授は研究大会までの3年間、養護教諭部会の講師として指導助言を行い研究推進に協力しました。

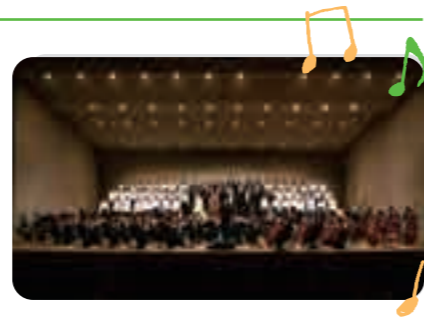




声楽研究分野における地域貢献活動

保育学科講師 渡邊 寛智

声楽研究分野における地域貢献活動として、地域の音楽家のみなさんと交流し、演奏会に参加することで地域の音楽文化に貢献する研究活動を行っています。平成30年11月に鳥取県米子市で行われた「第32回県民による第九米子公演」では、バスソリストとして参加させて頂きました。年末になると街中でよく耳にするベートーヴェンの第九交響曲。この作品は、それまで楽器だけで構成されていた交響曲の中に、初めて「人の声」が取り入れられた画期的な作品です。日本でも、年の瀬になると全国各地で演奏されており、「第九」もしくは「歓喜の歌」として親しまれています。11月に行われた演奏会では、東京から指揮者の松岡究氏を迎え、ソリスト、オーケストラ、合唱団が一体となって味わい深い演奏をすることができました。今後も、声楽研究分野から地域貢献ができる研究活動を継続的に行う予定です。



学生の主体的な学びの形成に資する 保育者養成プログラムの構築 ～学術教育研究特別助成金(共同研究)～



保育学科教授 梶谷 朱美 / 講師 渡邊 寛智 / 講師 中井 悠加 / 保育教育学科准教授 小山 優子

本研究は、平成30年度に保育学科に新設された「保育内容演習I・II」の通年授業を通して、学生の主体的な学びの形成に資する効果的な保育士養成プログラムを開発することを目指した共同研究である。本授業では、保育内容の5領域を統合した、歌・手遊び・パネルシアター・人形劇・演劇等の表現活動を創作し、キッズシアターと名付けた1月の発表会に向けて通年で準備をしている。

それと同時に、10月の飛鳥祭(大学祭)では2日間にわたりキッズランドとして子ども向けの参加型遊び場ブース(ものづくりコーナーとあそびコーナー)を企画・運営し、2日間で延べ200近くのご家庭にお越しいただいた。学生は様々な資料を集め、来場して下さる子どもの年齢に応じた興味、心身の発達状況、安全面等に考慮して企画・準備を行った。キッズランドは盛況で、両日ともご来場くださったご家族もいらっしやり、学生たちからも喜びの声が聞かれた。キッズランド開催後は自分たちで見つけた課題や反省点を生かしながら、学生は子ども理解を深め、保育活動のデザイン力となる基礎を身に付けようとしている。地域の中で子どもたちが安心して楽しめる、ワクワク感のある環境をこれからも提供し続けたいと考える。その中で、地域の子もたちと共に成長しながら、主体的に魅力的な保育・教育を展開できる将来の保育者育成をめざし、今後もカリキュラム改善に努めたい。



フィールドワークへのいざない



総合文化学科 研修計画I

総合文化学科 教員

1年生の夏季休暇中に大田市大森町で実施する2泊3日のフィールドワークに向け、フィールドワークや文化資源に関する基礎知識と、石見銀山および大森町に関する予備的な知識を身につけます。その上で、大森町の歴史・社会・文化について、問いを立て、その問いに対する仮説と検証方法を考えます。



総合文化学科 研修II

総合文化学科 教員

1年生の夏季休暇中に大田市大森町で2泊3日のフィールドワークを行います。「総合文化研修計画I」で作成した実施計画案に基づき、グループに分かれて、聞き取りを行ったり、調査したりしながら、仮説を検証していきます。実際に検証していく過程で、人とのコミュニケーションの難しさを実感したり、仮説や検証方法の甘さ・未熟さに気づいたりします。このような体験が今後の学びの刺激につながります。

本研修を通して、学生たちはフィールドワークの楽しさや難しさを体感します。また、実際に様々な体験をすることを通して、地域の社会や文化に対する興味・関心を高めていきます。





島根の魅力を英語で発信

文化とガイド

総合文化学科講師 キッド・ダスティン

松江を中心に真に、山陰両県の観光スポットを英語で効果的に説明できるようになることを目標とし、そのために必要な語彙や情報を学びながら、山陰の文化や歴史の知識を深めます。また、ガイド実践などを通して、実際のガイドに役立つレベルのコミュニケーション能力と英語の語彙・表現力を向上させます。



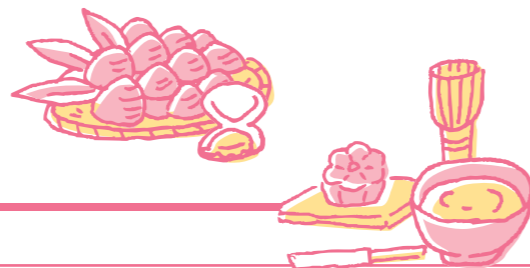
地域を知る

総合文化基礎ゼミナールほか

総合文化学科教員

大学での基礎的な学習方法を学ぶ総合文化基礎ゼミナールでは、ポスター発表やエッセイ執筆などを行います。今年のポスター発表のテーマは「松江のおすすめ」です。各ゼミ2チームに分かれ、文献を調査したり実際に現地を訪問したりしながらポスターを制作し、発表を行いました。

また、特別講義として平井伸治鳥取県知事にお越しいただきました。山陰の魅力や鳥取・島根両県の政策などについての講義をしていただき、山陰両県についての理解を深めました。



公開講座「椿の道アカデミー」

平成30年度は、前年度までCOC事業として運用していた履修プログラムの引き継ぎとして、パソコンのスキルアップ講座を開講しました。募集には定員以上の申込みがあり、多くのニーズがあることが分かりました。また、コンピュータサービス技能評価試験(CS試験)を目的とした講座では、数名の方が受講後に受験し、資格を取得されました。

今年度は、四年制化に伴う改修工事等により、昨年度より少ない14講座の開催となりましたが、長年受講していただいている受講者の方々に支えられ、「椿の道アカデミー」は26周年を迎えました。引き続き、地域の皆さまに愛される生涯教育の拠点として、発展を目指します。



しまね地域マイスター制度(人間文化学部)

松江キャンパス人間文化学部は、学部設立と同時に「しまね地域マイスター認定制度」を開始しました。地域の諸課題を自主的に探究し、各学科で定めた要件をすべて満たし、優秀な成績を修めた学生に対して、卒業時に「しまね地域マイスター」の称号を授与します。本制度は登録制で、すでに多くの学生がマイスター取得を目指して学業に励んでいます。

保育教育学科

地域の保育教育のための「表現とコミュニケーション力」科目 8単位以上を修得

地域の保育教育のための「生涯発達課題の発見力」科目 7単位以上を修得

地域の保育教育のための「実践的相談支援」科目 9単位以上を修得

地域課題をテーマとした「課題探究力」科目 6単位
卒業研究が完成

しまね地域マイスター認定!



地域文化学科

しまねの文化を「知る」科目 8単位以上を修得

しまねの文化を「体験する」科目 8単位以上を修得

しまねの文化を「活用する」科目 8単位以上を修得

しまねの文化を「探究する」科目 6単位
しまねを対象とした卒業論文が完成

しまね地域マイスター認定!



地域志向研究活動一覧 (平成26～30年度)

学科名	vol.7 掲載頁	研究タイトル〈研究年度〉 ※H26～H29は編成前の学科へ記載 研究助成等	学内研究者 ※役職名は該当最終年度現在 連携研究者(機関・協力者)
-----	--------------	--	--------------------------------------

保育教育学科	8	地域資源の探究・保存・継承を通じた初等教育の理論と実践に関する研究(H30) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	矢島毅昌准教授／福井一尊准教授／キッド ダスティン講師
		海外における障害者(児)の柔道支援の実際について ～国際交流の現場における調査～(H30) 学術教育研究特別助成金研究	西村健一准教授
		柔道の道場に在籍する「特別な配慮を要する児童生徒(発達障害等を含む)」の 実態と支援に関する調査(H30) 教員個人研究費	西村健一准教授
		図画工作科における身体性の可視化がもたらす教育効果の研究(H30) 学術教育研究特別助成金(個人研究)	福井一尊准教授 岡山県
	7	里親向け養育支援研修会に関する実践研究(H29～) 学術教育研究特別助成金(個人研究)	藤原映久准教授 島根県中央児童相談所／松江地区里親会
	7	児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実施(H27～) 学術教育研究特別助成金研究／教員個人研究費	藤原映久准教授 島根県(中央児童相談所)／児童養護施設 安来学園
	地域文化学科		隠岐における社楽の再検討(H30) 学術教育研究特別助成金(個人研究)
		出雲神楽の研究(H30～) 島根県古代文化センターテーマ研究	中野洋平講師 島根県古代文化センター
		加賀旧藩戸における賽の河原霊場形成に関する研究(H30) 教員個人研究費	中野洋平講師
15		民俗学による地域理解と地域志向教育(H30) 教員個人研究費	中野洋平講師
15		観光まちづくりの担い手組織のあり方に関する研究(H30) 教員個人研究費	竹田茉莉講師
15		鳥取県学校司書配置政策に関する研究(H30) 教員個人研究費	木内公一郎講師
		戦後松江における観光行政の展開(H28～) 科学研究費補助金・基盤研究C	工藤泰子教授 松江市史料編纂室
		島根県における伝説の研究(H27～) 教員個人研究費	山村桃子講師
		『出雲国風土記』研究(H25～) 学術教育研究特別助成金研究	山村桃子講師
		『古事記』作品研究(H24～) 教員個人研究費	山村桃子講師
保育学科	17	中学校保健体育教員を対象にしたダンス指導の研修プログラム開発 ～教材理解の促進に焦点をあてて～(H30～) スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業	梶谷朱美教授 島根大学教授 廣兼志保／島根県教育庁保健体育課指導主事 吾郷修治・中村展久
	16	運動遊びにおけるプレーリーダーとしての保育者の役割についての研究 ～雲南市立幼稚園・保育所(園)・認定こども園の実践を中心として～(H30) 学術教育研究特別助成金(個人研究)	梶谷朱美教授 雲南市教育委員会・雲南市子ども政策局・雲南市身体教育医学研究所うなん ・雲南市内18幼稚園・保育所(園)・認定こども園・雲南市子ども政策局子ども政策課 藤原 洋子・雲南市身体教育医学研究所うなん 西川麗久子 のぞみ保育設計研究所長 野津道代
	20	学生の主体的な学びの形成に資する保育者養成プログラムの構築(H30) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	梶谷朱美教授/渡邊寛智講師/中井悠加講師/小山優子准教授 (保育教育学科)
	5	島根県における障がい者アート作品による障がい理解拡充に向けた研究(H29) 学術教育研究特別助成金(個人研究)	福井一尊准教授 島根県／島根県社会福祉協議会
		初等図画工作科と生活科の複合的観点から捉えた地域資源についての研究(H29) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	福井一尊准教授／矢島毅昌准教授
		保小中地域連携による「ふるさと基盤教育」の実証研究(H28～H29) 益田市・島根県立大学共同研究事業	山下由紀恵教授／鹿野一厚教授／矢島毅昌准教授／福井一尊准教授 益田市教育委員会／益田市保育研究会
		保育・発達支援における「うた遊び手帳」導入研究(H28～H29) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授／梶間奈保講師／矢島毅昌准教授 松江市立揖屋幼稚園長 泰昌子／松江市立城東保育所長 福頼美恵子

保育学科		島根県における子ども・子育て支援新制度開始の動向(H27) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授／岸本強教授／藤原映久准教授 島根県健康福祉部青少年家庭課／松江市教育委員会生涯学習課／ 益田市教育委員会社会教育課
		保小中連携によるwebシズマップを活用した「ふるさと教育」の開発(H27～H28) 益田市・島根県立大学共同研究事業／北東アジア地域学術交流研究助成金 (地域貢献プロジェクト)研究	山下由紀恵教授／鹿野一厚教授／矢島毅昌講師／福井一尊准教授 益田市教育委員会／益田市保育研究会
		民話蘇生研究-匹見の民話の伝承-(H27) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	山下由紀恵教授／岩田英作教授／高橋純教授 島根大学名誉教授 田中瑩一／益田市教育委員会／益田市立見 中学校／益田市立道川小学校／道川公民館
		川本町におけるインクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト(H27～H29) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	山下由紀恵教授 川本町教育委員会(川本町立川本小学校・川本町 特別支援連携協議会)／社会福祉法人川本福祉会(川本保育所・因 原保育所・川本北保育所)
		音への興味関心を育む研究-「音の絵本」をととして(H27～H28) 学術教育研究特別助成金研究／教員個人研究費	梶間奈保講師
		島根県の障害児発達支援における人的環境の課題 -専門職研修プログラムの開発研究-(H26) 教員個人研究費	山下由紀恵教授／山尾淳子コーディネーター
		障がい者との共生社会における美術館鑑賞のあり方についての研究(H26) 学術教育研究特別助成金研究	福井一尊准教授 岡山県立美術館／岡山県立大学
		山陰の特徴景色を題材とした写真作品による地域文化資源意識の定着に向けて ～島根県・鳥取県全38市町村の今日的姿を絵画的に撮影した作品集の印刷・製本お よび啓発活動から～(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	福井一尊准教授
		地域の自然と児童文化財を活用した保育者養成プログラムの原理と方法に関する 研究(H26～H28) 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	矢島毅昌講師
		地域の子どもを取り巻く児童文化財の現状をふまえた保育者養成プログラムの展開 (H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	福井一尊准教授
総合文化学科		「ふるさと教育」生涯モデル-島根県益田市モデル- 地域資源と共同的体験を保育教育課程に生かす(H25～H26) 北東アジア地域学術交流研究助成金(共同プロジェクト)研究	山下由紀恵教授／鹿野一厚教授／矢島毅昌講師／福井一尊准教授 白梅学園大学大学院 無藤隆教授／島根県中山間地域研究センター 藤山浩／益田市保育研究会 ／益田市教育委員会／益田市福祉環境部／島根県中山間地域研究センター／(株)バイタルリド
		保育所における地域支援者との連携について -子どもの体力づくりを中心に-(H25～H26) 学術教育研究特別助成金研究	岸本強教授 松江福祉会(野波保育所)
		雲南市・幼児期運動指針実践調査研究(H24～H28) 文部科学省委託授業「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」	岸本強教授 文部科学省／雲南市
		エリアマネジメントにおける消費生活環境整備に関する研究(H29) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	藤居由香准教授
		フォニックス教材開発及び作成(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	ラング クリス准教授／キッド ダスティン講師／小玉容子教授
		父親による読み聞かせの実態(H28) 学術教育研究特別助成金(共同研究)	岩田英作教授／マユーあき教授／尾崎智子司書／内田絢子司書 本学非常勤講師 岡本千佳子
		島根の民話の保存と整理-ふるさと郷育(教育)への活用に向けて-(H28) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	岩田英作教授 島根大学名誉教授 田中瑩一
		志賀直哉『濠端の住まい』に見る(自然)-松江がもたらしたもの(H28) 教員個人研究費	岩田英作教授
		芥川龍之介の松江体験-失恋と『羅生門』誕生のあいだで-(H28) 教員個人研究費	岩田英作教授
		小学校での「英語読み聞かせ」活動の英語学習に対する効果と、小・中学校における 英語多読の導入の方法および効果(H27) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	小玉容子教授／キッド ダスティン講師
	「読みメン」の実態調査～男性の育児参加の向上をめざして～(H27) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	岩田英作教授／マユーあき教授／尾崎智子司書／内田絢子司書 本学非常勤講師 岡本千佳子	
	島根の民話の保存と整理-石見地方の民話の語り手について-(H27) 学術教育研究特別助成金研究	岩田英作教授	
	戦後復興期における松江の観光に関する研究(H27) 学術教育研究特別助成金研究	工藤泰子准教授 松江市史料編纂室	
	松江市の観光振興に向けた取組み-地域志向科目における実践-(H27) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	工藤泰子准教授 NPO松江ツーリズム研究会	
	『出雲国風土記』の英訳研究(H26～H29) 学術教育研究特別助成金(共同研究)(H29) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究(H26～H28)	松浦雄二教授／ラング クリス准教授／山村桃子講師／キッド ダス ティン講師 島根県立大学短期大学部名誉教授 藤岡大拙	
	島根の伝統工芸の体験と英語による情報発信(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	ラング クリス講師	

総合文化学科	島根伝統工芸の体験学習と意識変化の研究(H26) 教員個人研究費	ラング クリス講師
	大学付属の児童図書専門図書館の調査-おはなしレストランライブラリーの有効活用に向けて-(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	岩田英作教授/マユアキ教授/内田絢子司書 本学非常勤講師 岡本千佳子
	学生の視点を活かした観光振興の可能性を探る-雲南市吉田町を事例に-(H26) COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	工藤泰子准教授 一般社団法人鉄の歴史村地域文化研究所

地域志向教育活動一覧 「地域研究と教育vol.7」

学科名	vol.7 掲載頁	タイトル (教育活動年度)	学内研究者 連携研究者(機関・協力者)
-----	--------------	---------------	------------------------

保育教育学科		小泉八雲記念館子供向けワークショップ(H30)	福井一尊准教授 小泉八雲記念館
		「結いとうろ」灯籠制作(H30)	福井一尊准教授 島根県庁
		米子空港内壁画制作における指導助言(H30)	福井一尊准教授 米子空港
	5	小学校での「図画工作」特別授業(H30) 文化庁派遣事業	福井一尊准教授 島根県民会館
	5	島根県障がい者アート作品展(H30～)	福井一尊准教授 島根県/島根県社会福祉協議会
		松江市保育研究会造形展(H30～)	福井一尊准教授 松江市
		島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会(H30～)	福井一尊准教授 島根県
	4	小学校における理科支援に関する活動(H30) 観察・実験活動を中心とした小学校理科出前授業を通して	高橋泰道教授 松江市立忌部小学校
	6	全国の特別支援学校をつなぐ遠隔社会見学(H30)	西村健一准教授 OKIワークウェル/島根県立江津清和養護学校
	6	教員養成学校における音楽教育プログラム「おんがくとあそぼう」の取り組みについて(H30)	梶間奈保講師 松江市立忌部小学校/松江市立乃木小学校/松江市立幼保園のぎ
地域文化学科	9	絵本の読み聞かせを通じた保育者・教育者の育成(H30～) おはなしレストランライブラリー・乃木小学校・幼保園のぎでの実践	中井悠加講師(保育学科) 松江市立乃木小学校/松江市立幼保園のぎ
	3	第45回ほいくまつり 全人的保育教育者養成を目指して(S49～)	保育教育学科教員 しまね文化振興財団
	8	松江市保育研究大会(H26～)	小山優子准教授/矢島毅昌准教授 松江市
	13	スタートアップセミナーI・II(H30～)	地域文化学科教員
	10	地域の文化の発見(H30～) 地域文化論I(小泉八雲)	小泉凡本学名誉教授 小泉八雲記念館
	10	地域の文化の発見(H30～) 地域文化論II(出雲)	工藤泰子教授/杉岳志講師/山村桃子講師/キッド ダスティン講師 佐太神社・万九千神社・鹿島歴史民俗資料館
	11	地域の文化の発見(H30～) 地域文化論III(山陰)	中野洋平講師
	11	地域の文化の発見(H30～) 地域文化論IV(地域資源)	藤居由香准教授

地域文化学科	12	地域の文化の体験(H30～) しまね文学探訪	岩田英作教授	
	12	地域の文化の体験(H30～) しまね歴史探訪	杉岳志講師	
		地域の文化の体験(H30～) しまねのまちづくり	藤居由香准教授 松江市・邑南町	
	13	地域の文化の活用(H30～) 観光と地域資源	工藤泰子教授 株式会社田部/鉄の歴史村地域文化研究所	
	2	しまねの文化を知る(H30～) しまね文化論	工藤泰子教授 島根県ほか	
	14	出雲高校「課題研究」への教員派遣(H30)	増原善之准教授/中野洋平講師 島根県立出雲高等学校	
	14	平田高校への教員派遣(H30)	藤居由香准教授 島根県立平田高等学校	
	14	協定校との連携(H30～)	ラング クリス准教授/中野洋平講師 島根県立松江商業高等学校/松江市立湖南中学校	
	保育学科	17	第7回島根県中学校保健体育科研究大会(H30)	梶谷朱美教授 島根県中学校保健体育科研究会
		18	松江市小学校表現運動発表会・浜田市創作ダンス発表会・益田市学校ダンス発表会(H30～) ダンス大好き!豊かに表現する子どもの育成を願って	梶谷朱美教授 松江市教育研究会小学校体育部/浜田市学校体育研究連合会/ 益田市教育研究会保健体育部
16		第54回島根県学校ダンス指導者研修会(H30～) 楽しい体育学習を求めて スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業	梶谷朱美教授 島根県	
18		ふるさとに伝承する民謡の発掘と地域の活性化を目指して(H30～) 雑賀音頭の再創造	梶谷朱美教授 松江市雑賀町/雑賀公民館(館長:赤木直行)	
19		第11回島根県小中学校養護教諭研究大会(H30) よりよい生活習慣を身に付ける子どもの育成～質のよい睡眠の確保とメディアコントロールを通して～	梶谷朱美教授 島根県小中学校養護教諭部会	
18		島根県学校ダンス授業研究会(H30～)	梶谷朱美教授 島根県	
20		声楽研究分野における地域貢献活動(H30)	渡邊寛智講師	
総合文化学科			小泉八雲記念館との連携(H28～)	小泉凡本学名誉教授
			地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶ(H26～) -へるん探求-	松浦雄二教授
			五感を使って歴史を学ぶ(H26～) -松江の文化と歴史・しまね歴史探訪-	杉岳志講師
		明治時代の文化財「興雲閣」(H26～) -歴史的建造物の検証・インテリアと文化-	藤居由香准教授	
		異文化交流を通じて松江を知る(H25～) -アジア文化交流-	塩谷もも准教授	
		「古事記」「出雲国風土記」を歩く(H24～H30) -日本古典文学-	山村桃子講師	
	22	島根の魅力を英語で発信(H30～) -文化とガイド-	キッド ダスティン 講師	
		絵本の読み聞かせ(H22～) -忌部小学校を訪問-	岩田英作教授/マユアキ教授	
		絵本図書館おはなしレストランライブラリーの活動(H21～) -小泉八雲記念館で怪談読み聞かせ-	岩田英作教授/マユアキ教授	
		八雲の原文に触れる(H20～) -へるん作品鑑賞-	松浦雄二教授	
21	フィールドワークへのいざない(H30～) -総合文化研修計画・総合文化研修I-	総合文化学科教員		
22	総合文化基礎セミナー(H30～)	総合文化学科教員		